

Be

Ambitious.



港区立港南中学校
第2学年 学年通信 No.1 4
令和元年 7月 10日(水)

志



『遙かな尾瀬』 夏季学園にむけて④

【尾瀬を守る取り組み①】

雄大でありながら繊細。尾瀬の自然は四季折々、日々刻々と表情を変え、訪れる人を魅了してやみません。尾瀬の自然に触れれば、「守ろう」、「大切にしよう」という気持ちが、まさに自然についてくるようになります。

【緑を守る】 尾瀬の美しい湿原、尾瀬に生育する固有の珍しい植物を守る活動を行っています。

尾瀬の自然をまもるために、これまで国や自治体、土地所有者である東京電力、山小屋組合、自然保護団体などが、それぞれの立場で様々な活動を行ってきました。そこで、関係者が同じテーブルにつき、認識を一つにして対策を話し合い、より効果的に自然保護を進めるため、平成7年8月、尾瀬保護財団が設立されました。

尾瀬保護財団は、ハイカーの皆さんに尾瀬の適正な利用方法と呼びかけたり、ビジターセンター等の施設を運営するなど、その活動は多岐にわたります。



東京電力も、土地所有者として財団に参加しています。今後とも、財団と協調しながら、より充実した保護活動を展開していきたいと考えています。

◇種子落としマットを敷いています

尾瀬には、固有の珍しい植物が数多く生息しています。しかし近年、尾瀬の外から持ち込まれた植物(外来種)がふえ、元来生育していた植物(在来種)が追いやられてしまうおそれが出てきました。

そのため、靴についてきた植物の種子が尾瀬に持ち込まれることを防ぐため、東京電力では尾瀬の群馬県側の入山口すべてに種子落としマットを敷いています。



◇木道を敷いています

尾瀬の自然をまもるためには、人が立ち入らないことが一番かもしれません。しかしそれでは尾瀬の美しさにふれることができませんし、その美しい自然をまもることの大切さも感じることもできません。

そこで、自然に与える影響を最小限に抑えながら、自然とふれあうことができるよう、尾瀬には木道が敷かれているのです。木道は、山間部を含めて尾瀬のほぼ全域をカバーしており、尾瀬国立公園全体では総延長約 65km に及びます。



東京電力では、群馬県内の所有地を中心に、約 20km の木道を敷設、維持管理しています。材料には、折れにくく水に強い国産のカラマツ材を使用していますが、湿原の中では 10 年前後で架け替えが必要となるため、毎年計画的に整備しています。

◇荒廃した湿原の回復作業をしています

標高 1,969メートル、360度の大パノラマが広がるアヤメ平は、かつて「天上の楽園」とまで讃えられた美しい湿原です。昭和30年代の尾瀬ブームの時には、大勢のハイカーがおしかけました。その結果、湿原植物が踏み荒らされ、湿原を形成する泥炭層（動植物の枯死体が腐ることなく堆積したもの。尾瀬では1年に1mmしか堆積しないと言われている）がむき出しになり、あっという間に約1haの湿原が裸地化してしまったのです。

東京電力では、1964年（昭和39年）から、木道を設置して歩くルートを限定し、荒廃地の拡大防止に努めるとともに、1969年（昭和44年）からは積極的な湿原回復作業にのりだしました。荒廃した約1haのうち、0.9haについて東京電力で作業を行い、現在ではかなりの部分に緑が戻ってきています。



荒廃したアヤメ平（昭和30年代）



現在のアヤメ平



木道ペーパーで作成したパンフレット

＜コラム＞ 紙の資源として再利用

尾瀬の風景に欠かすことのできない木道。折れにくく水に強いカラマツを使っているとはいえ、厳しい自然環境にさらされ、また、多くの方が通行されるため、10年前後で架け替える必要があります。

これまで役目を終えた木道廃材は、尾瀬から搬出した後、産業廃棄物として処分していましたが、尾瀬の自然をまもっていた木道のライフサイクルを少しでも長くしたいと考え、これを紙の原料として利用するようになりました。